

以下の手順で、テキスト行から数値の取り出条件を設定します。

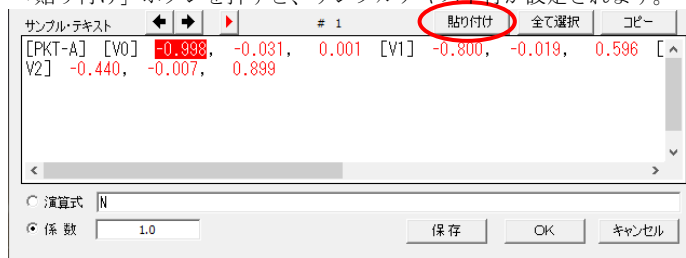
### 1) サンプル・テキスト行の設定

まず最初に、数値を取り出すサンプル・テキスト行を設定します。


何らかの方法でサンプルテキスト行をクリップボードへコピーしておきます



「貼り付け」ボタンを押すと、サンプルテキスト行が設定されます。

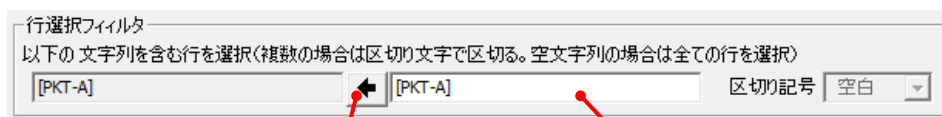


赤字は認識された数値項目を意味します。

赤反転は現在選択されている項目で、で移動できます。

### 2) 行選択フィルタ

何種類かあるテキスト行から、目的のテキスト行を選択する場合は、「行選択フィルタ」を設定します。



このボタンを押すとフィルタ文字列が設定される

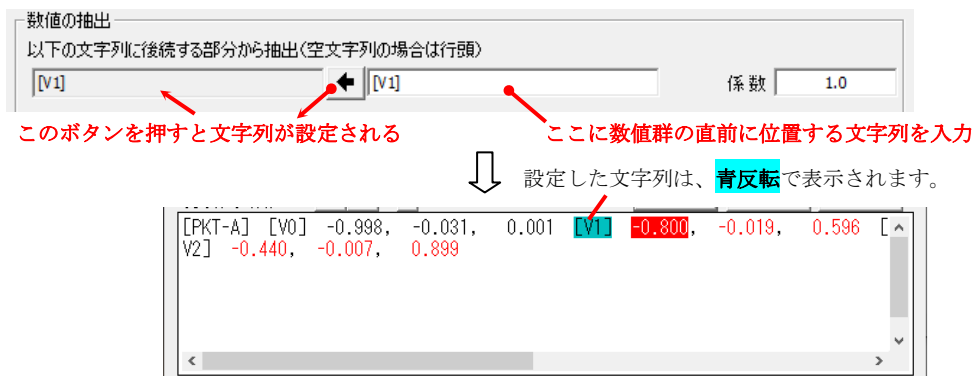
ここにフィルタ文字列を入力

上記の例では、“[PKT-A]”という文字列が含まれるテキスト行だけが処理対象となります。  
フィルタ文字列を複数設定する場合は、「区切り記号」で区切って複数の文字列を入力します (ex. “[PKT-A] [TYP1]”)  
この場合は、指定した複数の文字列が全て含まれるテキスト行が処理対象となります。  
行選択フィルタを空文字列とした場合は、全てのテキスト行が処理対象となります。

### 3) 抽出する数値の位置を指定

抽出する数値群の直前に位置する文字列を指定することにより、当該文字列以降から数値を認識することができます。

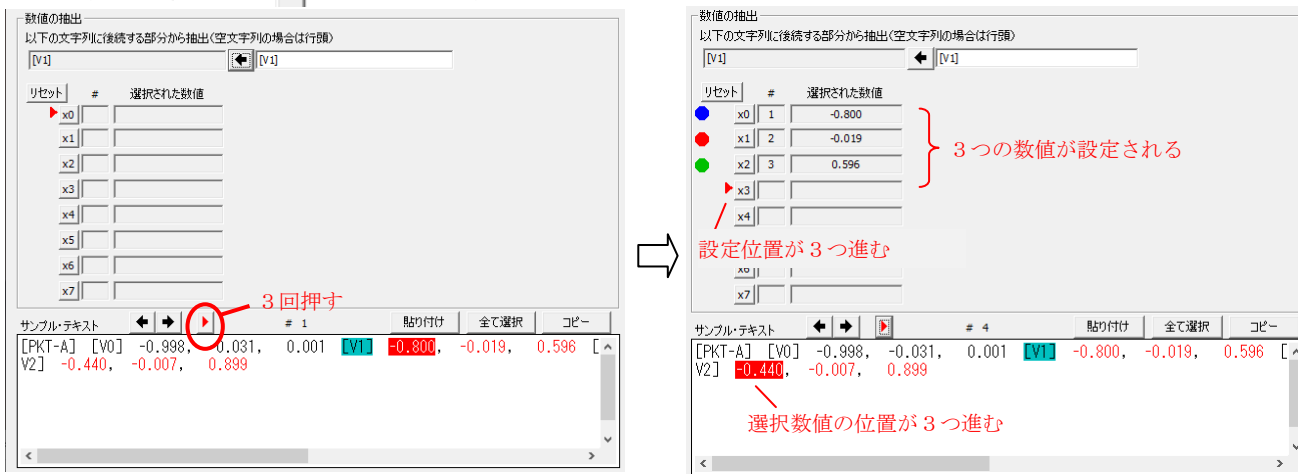
以下の例では、文字列「[V1]」以降から数値を認識するように設定しています。



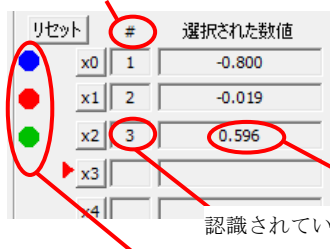
#### 4) 抽出する数値の設定

対象とする数値は、 ボタンで選択し、 : で当該ボタンの位置へ設定します。  
または、 ボタンを押すと、 で示される位置へ設定し、設定位置と数値の選択が1つ進みます。

例えば、下左の状態では タンを3回押すと、下右図のようになります



「#」は、何番目の数値が選択されているかを示します。



サンプルテキスト上で選択されている3番目の数値を表示します  
認識されている数値(赤表示の数値)の3番目の数値が選択されていることを示します。

有効な数値が設定されている場合のインジケータです。この円の色は、グラフィック上での描画色となります。

「リセット」ボタンを押すと、全ての数値選択設定がクリアされます。(上記、左図のようになります)

設定が完了したら「OK」ボタンで上書きするか、「保存」ボタンで名前を付けて保存を行ってください。

上記の設定例では、受信したテキスト行から3つの数値が抽出されて、以下のようなタイムチャート・グラフ(波形)が表示されます。

